

## 2016年2月の運用状況について

## 運用実績

## ■基準価額と資産毎の月間寄与額(概算)

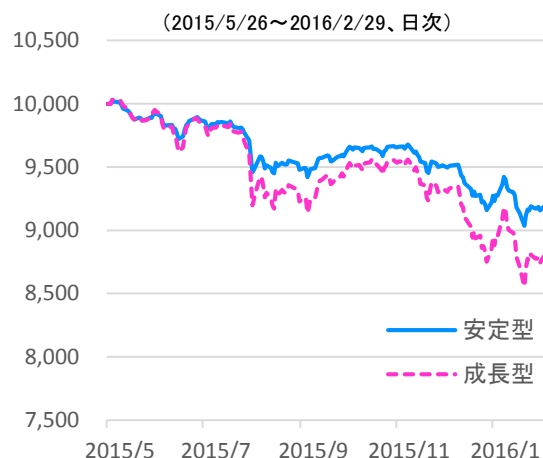
(基準価額)	騰落率	安定型		成長型	
		前月末比	寄与額	前月末比	寄与額
		9,208円	-65円	8,822円	-128円
		配分比率	寄与額	配分比率	寄与額
国内株式	-5.9%	7%	-35円	13%	-69円
国内債券	1.0%	29%	26円	14%	13円
先進国株式	-2.8%	6%	-15円	10%	-24円
先進国債券	-3.0%	7%	-20円	11%	-32円
新興国株式	-3.6%	3%	-8円	4%	-12円
新興国債券	-1.8%	4%	-7円	7%	-11円
国内リート	12.3%	2%	23円	4%	45円
海外リート等	-3.4%	2%	-6円	4%	-11円
コモディティ	-5.2%	1%	-4円	2%	-8円
ヘッジファンド	-0.4%	40%	-8円	30%	-5円
その他要因	-	0%	-13円	0%	-13円
合計	-	100%	-65円	100%	-128円

※騰落率は、月初の各投資信託証券が基本資産配分比率通りに運用されたと仮定した場合の値です。月中に新たに組み入れられた投資信託証券があった場合、その寄与は加味していません。寄与額も同様です。  
 ※配分比率は2月末日の配分比率です。  
 ※寄与額は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。  
 ※その他要因は、信託報酬等が含まれます。

## ■期間別騰落率

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
安定型	-0.7%	-4.7%	-3.9%	-	-7.9%
成長型	-1.4%	-7.6%	-6.4%	-	-11.8%

## ■スカイオーシャン・コアラップ(安定型/成長型)の基準価額の推移



※各ファンドの基準価額は信託報酬控除後の値です。  
 ※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## ■1ヶ月間の高値・安値

	高値	安値
安定型	9,422円 (2/2)	9,036円 (2/15)
成長型	9,183円 (2/2)	8,555円 (2/15)

## &lt;市場動向&gt;

2月の基準価額は、安定型、成長型ともに下落しました。国内では、1月末の日銀のマイナス金利導入の効果が浸透し、国内債券と国内リートは上昇しました。国内株式は、ドル円の水準が1ヶ月で7円以上円高になったことを受けて下落しました。一方、海外では、外国債券は先進国で金利低下が進んだものの、その他の外貨建て資産と同様に、円高の影響で円建てでの評価が下がったことにより下落しました。

## トピックスおよび見通し

## ■欧州の一部金融機関で信用不安懸念

欧州では、一昨年6月よりECB(欧州中央銀行)がマイナス金利を導入しており、金融機関の収益力低下に対する懸念から、一部の金融機関が発行する偶発転換社債(CoCo債:自己資本比率が一定水準を下回ると普通株式に強制転換などの仕組みを持つ)の利払いが不能となるとの見方が台頭し、信用不安が懸念されて欧州金融機関の株価が下がりました。

日本でも、1月末にマイナス金利の導入が決定され、金融機関の株価が値下がりすることになりました。足もとは落ち着きを見せているものの、マイナス金利が金融機関に与える影響については、引き続き注意深く見ていく必要があると考えます。

## ■国内リーートの時価総額が過去最高を更新

2月26日、東証リート市場の時価総額が約11.5兆円となり、過去最高を更新しました。日銀がマイナス金利を導入し、長期金利もマイナスとなる中で、安定的な利回りを求めるニーズが強くなっていることがその背景にあります。2月29日時点で、長期金利(日本10年国債)は、▲0.06%、東証1部全銘柄の予想配当利回りが約2.2%であるのに対し、東証リート指数の予想配当利回りは、約3.2%と一定の利回りを確保しています。需給面では投資家の利回りに対するニーズが強いこと、業績面では低金利環境下でリーートの発行体の資金調達コストが低下し、利益を下支えすると期待できることなどから、国内リートは底堅い展開が予想されます。

出所) Bloombergのデータを元にスカイオーシャン・アセットマネジメントが作成  
 ※上記は過去のデータであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

当資料はスカイオーシャン・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料のお取り扱いについては最終ページをご覧ください。



## ファンドの投資リスク

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、全て投資者の皆さまに帰属します。投資信託は預貯金と異なります。**

株価変動リスク、金利変動リスク、リートの価格変動リスク、MLPの価格変動リスク、商品(コモディティ)の価格変動リスク、為替変動リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク、資産等の選定・配分に係るリスク、ヘッジファンドの運用手法に係るリスク、仕組み債券に係るリスク、ブローカーの信用リスク

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

### ▼その他の留意点

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

**ご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

### お申し込みメモ

信託期間	無期限(2015年5月26日設定)
決算日	毎年7月10日(休業日の場合は翌営業日)です。ただし、初回決算日は2016年7月11日です。
収益分配	年1回の決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配をおこなわないことがあります。分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益等の全額とします。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。
購入・換金申込受付不可日	申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申し込みを受け付けないものとします。 (休業日については、委託会社または販売会社にお問い合わせください。) ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドン証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ロンドンの銀行休業日
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 (2016年4月1日以降は、未成年少額投資非課税制度も対象となります。)

## ファンドの費用

### ▼お客さまが直接的にご負担いただく費用

【購入時】 購入時手数料	購入価額に <b>3.24%(税抜3.0%)を上限</b> として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。
【換金時】 信託財産留保額	<b>ありません。</b>

### ▼お客さまが間接的にご負担いただく費用

【保有期間中】 実質的な運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して <b>年率1.55333%~1.86727%程度(税抜1.43827%~1.74472%程度)</b> 当ファンドは他のファンドを投資対象としています。したがって、当ファンドの運用管理費用 <b>年率1.3608%(税抜1.26%)</b> に当ファンドの投資対象ファンドの運用管理費用 <b>年率0.19253%~0.50647%程度(税抜0.17827%~0.48472%程度)</b> を加えた、お客さまが実質的に負担する運用管理費用を算出しています。ただし、この値は目安であり、投資対象ファンドの実際の組入状況により変動します。
【保有期間中】 その他の費用・手数料	監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務にかかる諸費用、投資対象ファンドの解約に伴う信託財産留保額等をその都度(監査費用は日々)、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。また、上場投資信託は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託の費用は表示しておりません。

## 委託会社およびファンドの関係法人

- 委託会社 スカイオーシャン・アセットマネジメント株式会社 [ファンドの運用の指図]  
金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2831号 加入協会：一般社団法人投資信託協会
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社) [ファンドの財産の保管および管理]
- 販売会社 [募集・販売の取り扱い、目論見書・運用報告書の交付等]

商号等	加入協会
株式会社横浜銀行	登録金融機関：関東財務局長(登金)第36号 日本証券業協会・一般社団法人金融先物取引業協会
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第1977号 日本証券業協会

<ご留意事項> ◆ 当資料はスカイオーシャン・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。◆ ご購入のお申し込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。◆ 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。◆ 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外で購入された場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。◆ 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。◆ 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。◆ 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数開発元もしくは公表元に帰属します。